

カメラレポート

貴重な夏鳥をレンズで追う 総領でブッポウソウ観察会



望遠レンズでブッポウソウを追う参加者

総領町へ飛来している夏鳥、ブッポウソウの探鳥会が7月6日に開催されました。

ブッポウソウは環境省の絶滅危惧種に指定されている貴重な鳥。総領町では、(財)日本鳥類保護連盟広島県支部芦田川分会と総領町ブッポウソウを守る会が協力して、町内の46カ所にブッポウソウの巣箱を設置しています。

この日は会員など約40人が参加し、リストアステーション光のドームでビデオ鑑賞や、はく製を見ながら説明を受けた後、2カ所の巣箱を観察しました。

ブッポウソウはひな鳥の巣立ち前で子育て真っ最中。参加者は「瑠璃色の輝きと羽を広げた時の白斑が魅力」と、親鳥が飛び立つ姿を見つけては、双眼鏡や望遠鏡で追っていました。

綿陽市の友を想い義援金 西城小が四川大地震へ寄付

西城小学校が7月1日、庄原市役所で中国・四川大地震被災者への義援金を滝口季彦市長に手渡しました。

西城小学校は昨年8月、綿陽市青少年代表団一行を迎え、学校での交流や2泊3日のホームステイを通して、友情を深めました。四川大地震が発生し、心配した子どもたちは学校で募金を呼びかけ、お小遣いを持ち寄ったり、保護者や先生にも協力をお願いしたりして、21,619円の義援金を集めました。

市長を訪問した児童会の4人は「児童全員からの心からのお見舞いです。四川省の方々へ届けてください」と思いを託していました。



滝口市長へ義援金を手渡す子どもたち

職人の技を地域に還元

「住宅デー」で修繕ボランティア

広島県建築センター協会庄原支部の建築職人76人が6月22日～28日、庄原・東城・西城・口和・高野の各地区で修繕ボランティアを行いました。

これは、建築職人が自分たちの仕事と技能を理解してもらおうと、毎年6月25日を「住宅デー」として全国的に行われている奉仕活動です。



雨どいを修繕する口和町の職人

口和地区では、独居老人宅5軒を訪問し、雨どいの修理や建具の調整などを行いました。修繕を依頼した高齢者は「閉まらなかったふすまが開まるようになり、大変ありがたい」などとお礼の言葉をかけていました。

また、庄原地区では、庄原小学校と峰田保育所で、下駄箱などの補修を行いました。



峰田保育所の天井を修繕

音楽で地域の心を一つに

東自治振興区がコンサート

音楽を通して地域住民が交流し、住みよい地域にしていこうと東自治振興区が6月24日、東小学校体育館で「ふれあいコンサート」を開きました。

このコンサートは毎年、庄原市出身で広島交響楽団のバイオリニスト伊達万浩さんをはじめプロの演奏者を招いています。3回目となるこの日は、これまでで最高の9人の演奏者が出演し、木管五重奏や弦楽四重奏などによる演奏を行いました。

会場に集まった保育所の園児や東小学校の児童、地域住民約250人は、クラシック音楽に触れるとともに、「となりのトトロ」や「世界に一つだけの花」を全員で合唱。子どもたちは「手の動きが速くてすごかった。知らない曲にも、いい曲があって楽しかった」と生演奏を楽しみました。

ふるさと庄原市で演奏した伊達さんは「どこでも同じ気持ちで演奏するように心がけていますが、やはり地元だと気持ちが入りやすい。今日は会場が一つになって、演奏している私たちも楽しかった。これからも気軽にクラシック音楽に親しんでほしい」と感想を話していました。



庄原市出身の伊達さん(左)ら9人が演奏

あこがれの職場で生き方を学ぶ

庄原中が職場体験学習

将来の生き方を考えたり、社会のルールを学んだりしようと、庄原中学校2年生197人が6月16日から20日までの5日間、市内の事業所90カ所で職場体験学習をしました。

生徒たちは、希望する事業所に分かれ、「大きな声であいさつをする」「きびきびと行動する」など、個人目標を掲げて臨みました。

庄原幼稚園では3人の生徒が子どもたちと遊んだり、歌ったりして保育を体験。番城伸太くんは「子どもがなついてくれてうれしかったけど、



保育を体験する番城くん

これほど体力的にきつい職業だとは思わなかった」と感想を話していました。また、生徒を指導した須澤洋子園長は、「仕事は1週間で覚えられないけど、あいさつなど社会に出て大切なことを学んでほしい。そして日々の生活に生かしてほしい」と話していました。



企画課で職場体験した菅原くん

今後、この職場体験で学んだことを冊子にまとめ、卒業後の進路について考えていきます。

(文・写真:菅原尚也・庄原中2年)

雄大な自然を五感で楽しむ

帝釈峡でウォーキングとコンサート

7月20日、すがすがしい夏の帝釈峡で「帝釈峡ウォーキング」と「まほろばコンサート」が開催され、市内外から約200人が参加しました。

午前中、小鳥のさえずりや帝釈川のせせらぎの間をこえる中、ウォーキングマップを片手に思い思いのペースで歩くグループや、ボランティアガイドの説明を聞きながら歩くグループに分かれ、名勝帝釈川の谷を散策しました。

緑に囲まれた野外ステージでは、広島市を中心に活躍中のTHE LOFUTY'S(ザ・ロフティーズ)と椎名まさ子さんの歌声が大自然の中に響き渡り、参加者も一緒に歌ったり、踊ったりと楽しいひとときを過ごしました。

広島市から参加した家族連れは「初めて来ましたが、自然があふれていていいところですね。また秋に来たいと思います」と話していました。



野外ステージで行われた「まほろばコンサート」

中学生が生と性を考える

高野中で助産師らが「命の授業」

7月4日・11日の両日、高野中学校で「思春期保健事業～みんなで考えよう生と性～」が実施され、3年生20人が命の授業を受けました。

これは、教員や保健師、助産師が合同で企画し、庄原赤十字病院の助産師5人が授業を行いました。

1日目は、性について正しい生理的知識を学び、2日目は生徒参加型の体験実習で、妊娠疑似体験や赤ちゃん人形を抱っこして、実際の重さを体験。

助産師は「家族や周囲の人たちに祝福されて誕生してきていることを忘れないで。一人一人がかけがえのない存在で、自分を大事に、友だちを大事に、命を大切にしてほしい」と熱いメッセージを送りました。



赤ちゃん人形に語りかける生徒たち

授業を終え、生徒たちは「産んで育ててくれてありがとうと伝えたい」と話すなど、命の重さを実感していました。

地元住民の特技を活用し新講座

口和公民館が人気講座を企画



フラダンスの楽しさを伝える城田さん

「和太鼓講座」や「山野草の寄せ植え講座」など各種講座が人気の口和公民館で、6月から「フラダンス講座」がスタートし、受講生16人が優雅な踊りに挑戦しています。

この講座は、地元口和町の城田アンジーさんが講師となり、ハワイの伝統的な踊りを基本から指導しています。参加者は笑顔を絶やさず、体全体を使って気持ちを表現し、「意外と運動量が多く、ダイエットにもなる」と踊りに汗を流していました。

この他、「庭木の手入れ講座」も地元住民が講師となって行われ、多くの参加者で人気の講座となっています。

口和公民館では、随時各講座の受講生を募集しています。詳しくは口和公民館（☎0824-87-2213）まで。

水辺の救助や救護を学ぶ

水上安全法短期講習会

本格的な夏を前に6月23日、西城温水プール「水夢」で水上安全法短期講習会が開催されました。

この講習会には、西城地域の小中学校の教員や「水夢」の職員など12人が参加し、水辺の事故防止や、事故者の救助および救護の知識・技術を学びました。

日本赤十字社広島県支部の指導員を講師に、水上安全法の重要性などの説明を受けた後、実際にプールに入りダミー人形や救助用の器具を使い救助法の実技を体験したり、AED（自動体外式除細動器）を使った救命処置を体験したりしました。

講習会の参加者は、「バックボードを使った救助法を初めて学ぶことができ、有意義な講習会でした。今回の講習で学んだことを今後の監視業務に生かして、事故防止に努めていきます」と話していました。



バックボードを使った救助法の演習

地域つながり笑顔広がる

東城子育てスマイル交流会



ちまき作りを体験する参加者

6月24日、東城児童健全育成施設「こどもの館」で、子育て支援センターの活動紹介や子育て家族・地域住民の交流を目的として「スマイル交流会」が開催されました。

2回目となる今年は、子育て推進委員や子育て応援団・民生児童委員などの協力により、「手作りちまき体験」「うたごえコンサート」「アロマセラピー」「育児相談」などが行われ、親子連れなど約200人でにぎわいました。

手作りちまき体験コーナーでは、民生児童委員が、作り方と一緒に節句にちまきを食べるいわれなどを紹介。参加者は「初めてちまきを作りました。少し難しかったけど上手にできてうれしかった。子どもと一緒に家でも作りたい」と話していました。

特産のリンゴづくりを学ぶ

下高保育所が農業体験

高野町の下高保育所の園児19人が6月25日、下門田のリンゴ園で農作業を体験しました。

園児たちは畑に着くと、リンゴの青い実を見て大喜び。高野町果樹組合青年部の方から作業の説明を受けた後、摘果と袋かけに挑戦しました。たくさん実った果実の中から良し悪しを見極め、余分な果実をハサミで一つ一ついねいに切り落とす作業に挑戦しました。

最初は「もったいないね」と話していた子どもも、「大きくておいしいリンゴができるのが楽しみ」と話し、農家の方のリンゴに寄せる思いと苦労を学んで帰りました。また、秋にはリンゴの収穫体験を予定しています。

この他、下高保育所では本年度、地域への愛着を育もうとダイコンやトマト栽培にも取り組んでいます。



リンゴの袋かけを体験する園児

有事に備え地域と行政が連携

比和町大規模林野火災想定訓練

6月15日、庄原市消防団比和方面隊は、庄原消防署高野出張所と合同で、地域住民、学校など約450人が参加し、比和小学校から出火し山林に延焼したとの想定で、本格的な訓練を実施しました。

地域住民による集団避難訓練や小中学校の児童生徒たちのパケツリレー消火作業、消防はしご車やヘリコプターによる救助・消火作業、女性防火クラブによる炊き出しなど、本番さながらの訓練を行いました。

岡原恭昭方面隊長は「比和町初の大規模な訓練だった。有事に備え地域と行政が協力し合い、防災に努めなければならない」と話していました。



はしご車による救助訓練

炎天下に白球を追って

西城町中学生招待軟式野球大会



比和中と東城中が対戦

7月20日、西城球場で、市内の中学校7チームが参加して、第7回西城町中学生招待軟式野球大会が開催されました。

この大会は、中学校野球部の試合経験を少しでも増やそうと、西城中学校野球部保護者と西城町体育協会野球部を中心に、比婆・庄原地域の中学校野球部を招待して8年前に始まりました。

当日は、グラウンドの気温が35℃まで上がる炎天下の中、高校野球やプロ野球の選手を目指す中学生たちが、「ナイスピー！」「ナイスバッティング！」と元気な声を上げ、白球を追いかける姿に会場から惜みない声援と拍手が送られました。

大会は、決勝で西城中学校が4-2で庄原中学校を破り優勝しました。